

レアメタル資源再生技術研 現状・展望でセミナー

各社、取り組みを講演



講演する金城社長

レアメタル資源再生技術研究会は18日、ウエビナーで第23回研究会を開催した。今回は

「最先端の資源リサイクルの現状、将来展望」リサイクルの現場感、将来テーマ、環境テーマ、社会貢献」と題して行われた。講演会では冒頭、藤田豊久会長（東京大学名誉教授）があいさつし、今回の講演者について紹介を行った。その後、金城産業の金城

正信社長（小型家電リサイクル協会会長）が「小型家電リサイクルの現状、将来展望」について講演した。

同社は西国最大級の金属スクラップのリサイクル処理能力を有し、自動車から小型家電まで幅広くリサイクルする。同社では地域の静脈産業インフラを担う責任から、3カ所の事業所で認定を取得し、災害や感染症による事業停止へのリスクを極力抑えている。

また、リサイクル技術では単体分離を追求し、リサイクル資源の純度を高めている。現

在では小型家電のリサイクル率がマテリアルリサイクルとサーマルリサイクルを合わせて98%に達している。

今後も単体分離を追求し、国内での資源循環を加速させる。加えてAIとIoTの進化でビックデータを蓄積し、2030年を目途に完全自動化リサイクルを目指すとともに、その実現のため一段の連携を求めていく考えを示した。

続いて平林金属の平林実社長が「家電リサイクルの現状、将来展望」、ホルタの今井健太社長が「リチウムイオン電池の発火リスク・対応策」、ホルタにおけるリサイクル、ウエオリア・ジャパンの本田大作上級副社長が「ウイオリアグループの概要とプラスチックリサイクル事業の概要」、マテックDLV事業部の山中真執行役員DLV部長が「自動車リサイクルの現状、将来展望」